

異文化間教育学会第40回記念大会特定課題研究

異文化間教育における政策と研究者の役割

2019年6月8日（土）9：30～12：00
於：明治大学中野キャンパス 低層階5階ホール

司会

馬淵 仁（大阪女学院大学）

発表

1. 榎井 縁（大阪大学）
「移民政策なき日本社会における外国人支援－地域国際交流協会・提言としての実践」
2. 太田 浩（一橋大学）
「どうする日本の留学生受入れ－ポスト30万人計画を見据えた留学生政策」
3. 金 侖貞（首都大学東京）
「研究者は多文化共生のための政策づくりにどうコミットするのか－識字教育政策の形成を手掛かりに」

指定討論

1. 野山 広（国立国語研究所）
2. 工藤和宏（獨協大学）

「異文化間教育における政策と研究者の役割」

*第一発題：

卓越した地域国際交流協会の実践からの提言と示唆
国レベルでの移民政策がないことによる限界性

*第二発題

急増する留学生数とその内実
政策の立案、決定、実施、効果、評価に対する研究者の関わりは？

*第三発題

異文化間教育研究におけるマクロな視点からの政策研究の可能性
他の実践例に学ぶことから現状を変える手がかりを得る

*マジョリティの共感を得るための、研究者の役割・ストラテジーとは

求められていること

1. マクロな視点の重要性

- 多文化主義（加・豪・米）なのか、統合を目指すのか（主な欧州諸国）、或いは、多文化共生（日本？）なのか
- 目指す社会構造や教育・言語施策が異なるフレームワークであることを的確に把握した検討が必要

2. 基本的理念や価値観を捉え直す議論

- 教育の権利と義務、そして人権を含めた議論
- 法的な保障を視野に入れた議論
- 研究者としての立ち位置を明確にした議論

3. 国内外の関係する研究機関との交流や連携

- 海外の研究成果への迅速な応答
- 日本語以外の言語による発信の試み

※ 喫緊の課題に対する、異文化間教育に関わる研究者としての責務